

1/700 シーウェイモデルNo.6

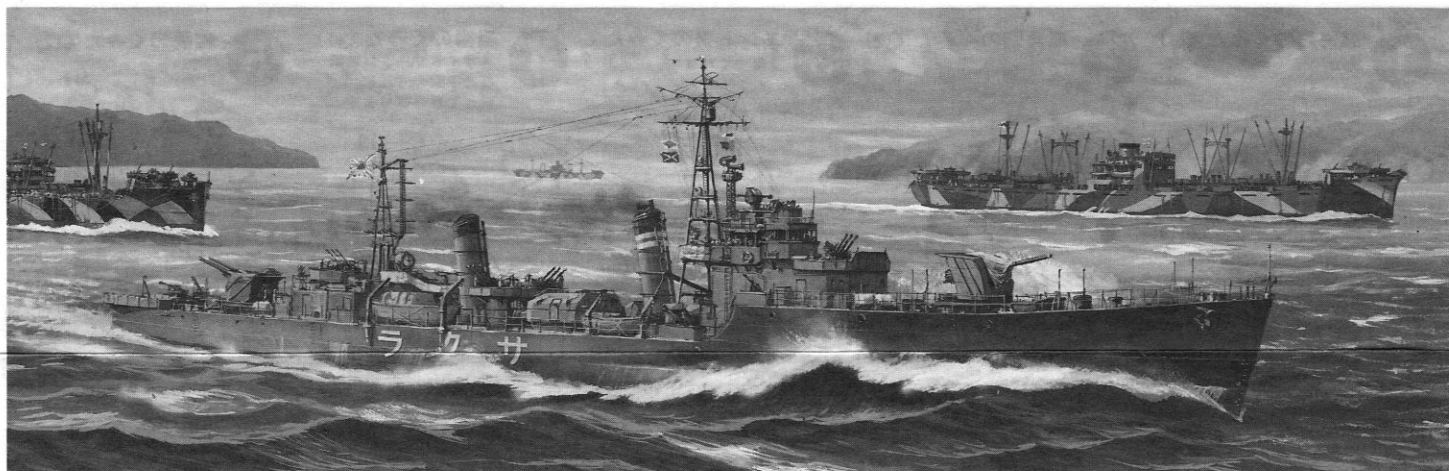
日本駆逐艦
JAPAN NAVY DESTROYER 桜 SAKURA さくら

CE FUJIMI EUROPA
Chaussee de Wavre 1183
1180 BRUXELLES BELGIUM
IN CASE OF NEED, RETAIN ADDRESS
GARDER CET EMBALLAGE OU RECOPIER CES INFORMATIONS
CONSERVARE QUESTO INDIRIZZO
FIQUE COM O ENDEREÇO
FAVOR GUARDAR DIRECCION

9SP55A

家庭用品品質表示法による修理部品品質表示
取扱い上の注意
1. 幼児の手が届かないところに保存し、
いたずらをしない様注意して下さい。
2. 火気には注意し換気をよくして下さい。
3. 空気に接しない様注意して下さい。
表示 番 S23000 S23006 S25013
部品を取出した空箱は、幼児が誤ったりしな
い様に破りて下さい。

FUJIMI



SEA WAY MODEL

〈駆逐艦桜について〉

太平洋戦争開始と共に、優れた性能を持って、各海戦に活躍した艦隊駆逐艦や、全く新しい任務を担って登場した、防空駆逐艦秋月型も、それ等は皆、戦争前の理論から生まれたものでありました。常に第一線で活躍したり、敵勢力下の悪条件を克服して、強行突破を敢行したり、ソロモン海域を中心に、日本駆逐艦の損耗は次第に激しくなりました。そして、昭和18年、19年に於ける従来駆逐艦の建造予想は、損耗量を補う量に遠く及ばない事がわかり、戦局の後退と、補給線の確保が次第にむつかしくなり、資材の不足が目立って来ました。

そこで、限られた資材の有効な使用と、短期間に、出来る限りの多数の駆逐艦建造の必要に迫られました。種々の検討が行われた結果、昭和18年2月に基本計画がまとまりました。当時、目ざましい航空戦力の発展によって、航空機の、洋上決

戦に占める役割りは大きく、為に、戦前予想した海戦とは、様相が全く異って来ました。駆逐艦もその例にもれず、任務も次第に船国護衛や上陸作戦支援が主要目になり、戦前の理論から生まれた艦隊駆逐艦の様に、高速が不可欠の条件では無くなり、優勢な敵航空勢力に対する防御力の強化、及び対潜攻撃力の充実に主眼が置かれました。

この発案のもとに建造されたのが松型駆逐艦です。戦前理論から生まれた防空駆逐艦秋月型は、特種な艦として誕生しましたが、桜の属する松型駆逐艦は、実戦の経験が教えた必要性によって生まれた点が相違するといえましょう。昭和18年の基本計画は、戦域における種々な任務に活動出来る万能小型艦とし、基本排水量は1260トン。対潜対空兵装は最新装備とし、戦時急造に間に合う小型タービン機関を搭載の為、速力は低下しましたが、船国護衛等の任務には支障ないものとされました。

又、この艦型で特に重要な事は、大量生産の可能である点があげられます。その為、設計は極力簡易化を計り、工期は正味5ヵ月程を要したのみのといわれます。主兵装は12.7センチ高角砲3門、4連装魚雷発射管1基です。魚雷は自衛の為で、

61センチ魚雷4本の外には、次発魚雷を搭載していませんでした。

低速以外は、戦時急造艦ながら、操縦性、凌波性、耐波性に優れ、対空防御力、対潜攻撃力の強化、被害に強い事等、用兵者から歓迎されました。2本の煙突の間に広く、日本駆逐艦特有の艦形と甚だかけ離れているのは、主機関が罐室一機、罐室一機室と交互に配列された為で、1発の被弾によって航行不能に陥り、撃沈される事が少なくなる好結果を得ました。

桜は昭和19年11月25日、横須賀海軍工廠に於て完成、昭和20年7月10日、船国護衛中、大阪港北突堤沖に於て、機雷に触れて沈没しました。

〈桜主要々目〉

基準排水量	1,262トン
水線長	98m
馬力	19,000馬力
速力	27.8ノット
備砲	12.7cm高角砲×3
魚雷発射管	61cm×4
完成年月	昭和19年11月25日

PAINTING

日本の軍艦の塗装は、艦体はいわゆる戦時塗色と言われる少し青みがかった濃い灰色を使っています。これは1903年(明治36年)末、日露戦争をひかえてこの塗装が採用されて以来、大戦終結までそのままでした。現在の海上自衛艦の船体色とはほぼ同じです。ただ大戦後期になって航空母艦にかぎって薄緑色を使用しました。時には迷彩塗装も使われましたが、これはわずみ色の濃淡のぬり分

けでした。吃水線以下の艦底の色は、マルーンと呼ばれる暗い赤色です。甲板は駆逐艦、軽巡が鉄板張り、艦体と同色、重巡は艦によって鉄板張り、リノリウム張り、板張り種類が違いますが、リノリウムと板張りは塗装されず、そのままです。戦艦の甲板、ほとんどの空母の飛行甲板は板張りです。細部では煙突の頂部は黒、後部マストは、上方へは煙突の頂部と同じ高さから9m、下方へ

は煙突の黒色部分の下端までと同じ幅で黒く塗装していました。菊の御紋章は金色、砲身基部やカッターなどのキャンパスのカバーは白がよいでしょう。艦尾にひらがなの艦名が真ちゅう板で付いていましたが、戦時には艦体と同色に塗りつぶされました。書き出しは右からですので注意して下さい。開戦からしばらくの間、連合艦隊所属艦は識別のために前マスト、檣楼のトップは白でした。

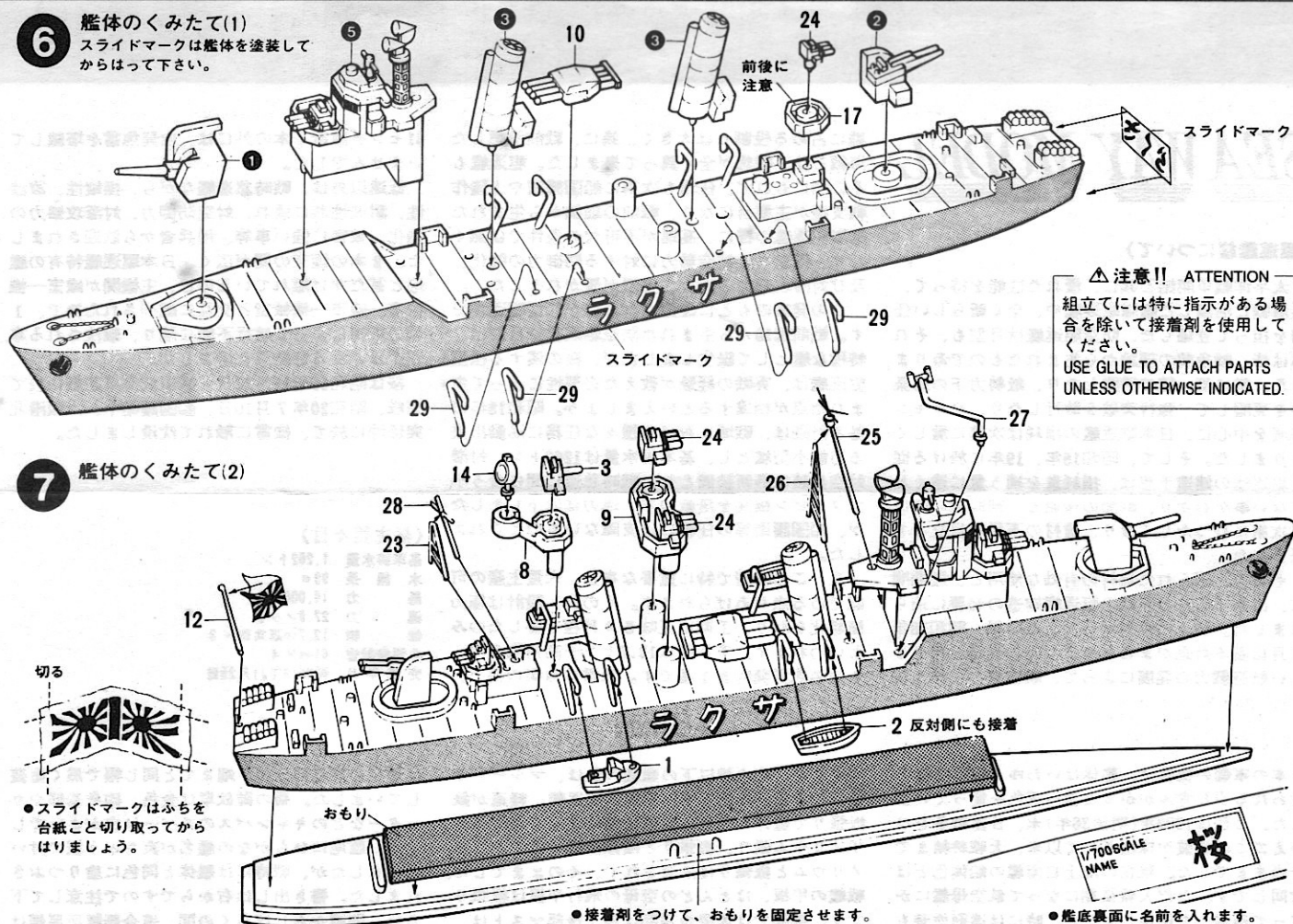
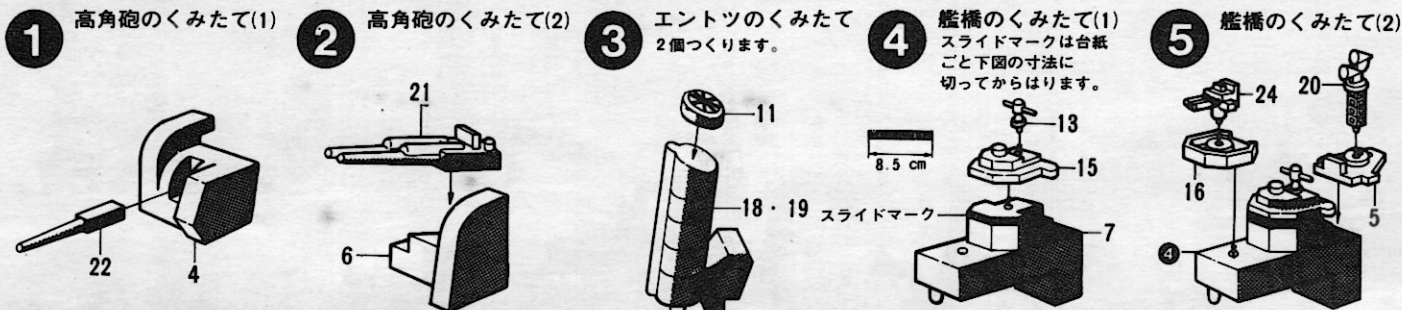
SAKURA桜

〈作る前にお読みください〉

★ランナー（枝）から部品を切りはなす場合
必ずニッパーかナイフ等を使って、ていねい
に切りはなして下さい。★接着剤は組立てる
部品の両方に少しづつ付けて接着して下さい。

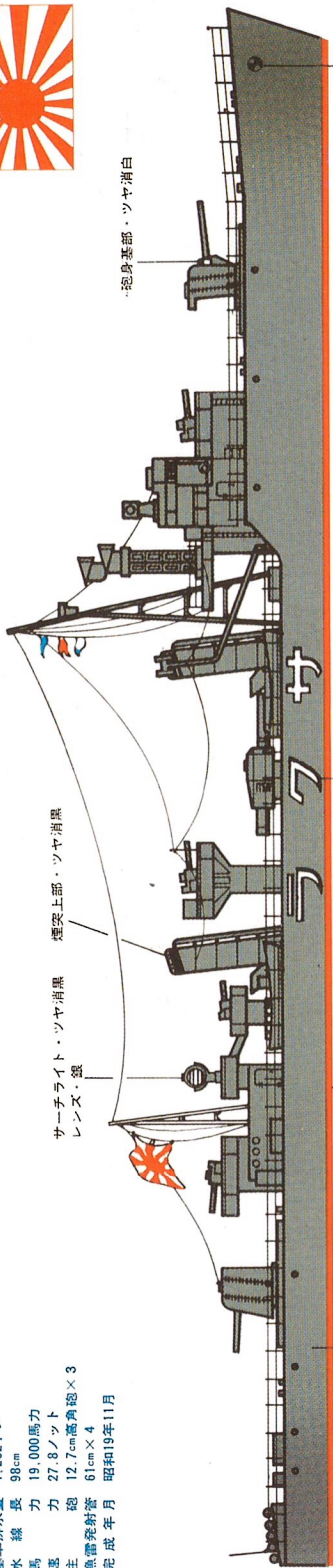
部品請求カード			
1700	SWM3	送料	(合計)
船体(上)...	100円	3月	130円
船体(下)...	80円	2月	130円
部品...	100円	3月	190円
おもり小1本	30円	1月	130円
デカル...	10円	0月	80円
説明書...	100円	3月	90円
			193円
			40045

●必要な部品を○でか
こみ住所、氏名、郵便
番号を明記のうえ、こ
のカードと代金または
切手を当社アフターサ
ビス係まで、お申し込
みください。
●表示価格は予告なく変
更する場合があります。



桜データー

基準排水量 1,262トン
 水線長 98cm
 馬力 19,000馬力
 速力 27.8ノット
 主砲 12.7cm高角砲×3
 魚雷発射管 61cm×4
 完成年月 昭和19年11月



砲身基部・ツヤ消白

サーチライト・ツヤ消黒
 レンズ・銀

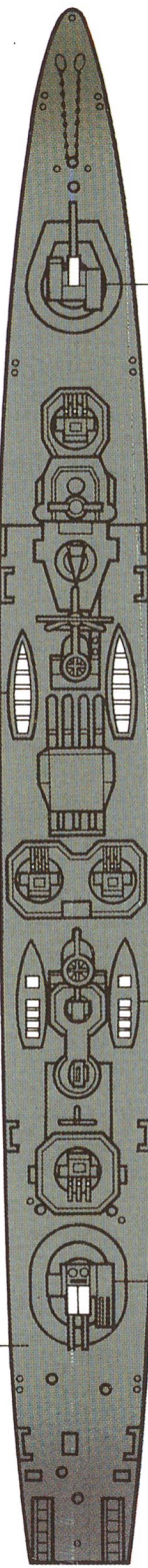
煙突上部・ツヤ消黒

錨・黒銀色

スライドマーク カッター・側面は灰色
 内側はツヤ消白

吃水下・暗い赤

側面・や、暗い灰色
 甲板・明るい灰色



砲塔・や、暗い灰色

ランチ・側面と甲板は明るい灰色
 上部構造物はツヤ消白

砲塔・や、暗い灰色